

# 格差意識の拡大メカニズム

— 個人化と階層移動の閉鎖化に着目した数理モデル的説明 —

中尾 知博

## 1 はじめに

総中流意識は崩壊し、近年、格差意識が大きくなっているといわれている。本研究では、この格差意識に注目し、その拡大メカニズムを数理モデルを用いて示す。

## 2 階層帰属意識と格差意識の定義

人々の自分がどの階層に属しているかという主観的な意識を、階層帰属意識という。本研究では、客観的な階層地位における格差そのものではなく、格差意識を問題としており、この階層帰属意識が重要な意味をもつ。実際は上層の階層に属する人が中意識を抱くなど、階層帰属意識は実際に所属している階層に対する客観的な評価と一致するとは限らない。このずれは、実際の階層構造そのものを人々が正しく認識していないためであると考えられる。ファラロはデイヴィスの発見に基づき、人々が次のような3つの特質を持つ階層のイメージを形成するモデルを作った。

**特質 1.** 階層のイメージは現実の階層構造の分割であり、現実の階層序列はイメージにおいてもそのまま保存される。

**特質 2.** イメージは現実の階層構造において自己が占める位置によって規定される。

**特質 3.** 階層の識別は、相手の所属階層と自己の所属階層の距離が近ければ近いほど細くなる。

階層帰属意識は、階層構造に対するイメージとイメージ上の自己の階層から決定される。高坂は階層帰属意識の分布を問題とし、中意識の肥大化を説明するモデルを作った。本研究ではこれらのモデルをベースとしたモデルをつくり、人々の階層帰属意識を算出した。さらに、人々の階層帰属意識のばらつきが格差意識の形成と関わっていると考え、階層帰属意識の分布の分散が大きいほど格差意識が大きくなると定義した。

## 3 個人化と格差意識拡大

既婚女性の階層帰属意識の規定要因として夫の収入が高い説明力をもつことがある。FK モデルにおいてこれは、自己に対する誤った評価として表現される。女性と男性のように、ある地位変数において差があるような2つのグループを想定する。さらに片方のグループは誤った評価を行うモデルを考えた。このとき、誤った評価が解消され、正しい評価を行うようになることで、階層帰属意識の分布の分散が大きくなる、つまり格差意識が大きくなるということが確認された。

## 4 階層の閉鎖化と格差意識拡大

他の階層からの階層移動が難しい階層を、閉鎖的な階層という。ここでは、現在の階層に加え、将来の階層への期待も階層帰属意識に影響を与えるようにモデルを拡張した。このとき、将来の階層は現在の階層から決まるものとし、さらに、実際に移動したわけではないので将来の階層の評価には現在における階層構造のイメージを用いるものとした。この拡張したモデルは客観的階層帰属意識を計測する時点において客観的な格差が同程度であっても、将来への期待の違いにより格差意識が変化するモデルである。特にこのモデルにおいて、上層の階層が閉鎖的であると人々が考えるときには、そうでないときに比べ格差意識が大きくなるということが確認された。

## 5 まとめと今後の課題

格差意識の拡大メカニズムを説明するモデルを2つ提示した。実際、格差意識の拡大と同時に、個人化、階層の閉鎖化も起こっているため、これらのモデルはある程度の説明力をもつ可能性があると思われる。様々な条件下で格差意識を調べることで、実際のデータを用いて検証を行うことが今後の課題となる。